

STAGE 3-11

鳥栖第二物流センター

新設 稼働中

竣工 DATA

竣工年月	2008(平成20)年5月	
設計者	梓設計	
施工者	大林組	
施設概要	敷地面積	12,949.52㎡
	延べ床面積	16,967.21㎡
	構造	RC造一部S造3階建
	プラットホーム	密閉型高床式・20バース
	防熱方式	外壁外防熱・天井束立工法
収容能力	総トン数	22,126.66t
	F級	17,546.33t
	C級	1,377.55t
	C&F	3,202.78t
	ドライ	×
	凍結	×
	冷却設備	施工者
冷凍機メーカー		長谷川鉄工
主要冷凍機		高速多気筒冷凍機
冷媒		アンモニア
冷却方式		分散式・直接膨張式・アルミヘアピンコイル・ユニットクーラー
荷捌室低温化	各階+5℃	
その他設備	ロープ式エレベーター1基(ルームレス)、垂直搬送機4基、移動ラック4,410PL、太陽光発電設備100kW	



鳥栖第二物流センター [2008(平成20)年]



アンモニア直膨式冷凍機(長谷川鉄工製)

産地でもあるため、鳥栖工場はこれら原料や加工品の保管も多かったのだけど、ここはより物流貨物への対応を強化するため、広い低温室を設け、さらに移動ラックも4,410パレットを導入したよ。後に物流業者用の貸事務所を別棟で建てたしね。

この冷却設備は長谷川鉄工製の冷凍機を日新興業が施工したアンモニア直膨式なんだけど移動ラックの導入やC&F庫の増加により、ここもユニットクーラーの部屋の割合が多くなってね。

ここにも太陽光発電設備が導入されているんだけど、初めて京セラ製のパネルを採用したんだよね。



低温室3階の外部にクーリングタワーを配置して、屋上まで排気筒を立ち上げることによって廃熱を処理しました。また低温室屋上に屋外型キュービクルとソーラー設備を配置しました。この施設が屋根防熱束立工法の最後の施設(コラム：東京第二)となりました。

冷凍食品に農産物・畜産物、なんでも集まる…九州のへそに第二の拠点完成



鳥栖工場と九州自動車道の鳥栖ジャンクションを挟んで、福岡側に鳥栖第二物流センターが作られました。



順調な鳥栖物流センターに続き、九州地区における内陸型冷蔵庫を拡充する目的で作ったんだよ。

佐賀県は農産物や畜産物の生

column 水滴との戦い

横浜物流センターで採用された低温室の配管のゾーニング化をさらに一歩進め、低温室の天井にある冷媒配管を冷蔵倉庫のエキスパンション側へ配置して配管結露による水滴で荷物や床が濡れることを防止した。また、右図の通り冷蔵倉庫出入口前室の一部を低温室側に移すことで、配管結露による水滴落下の是正処置につなげ、フォークリフトの運用安全と作業効率を高めるなど、物流荷物対応の冷蔵倉庫として結露やカビなどに配慮し設計されている。

